

# 生活科の実践

俱知安町

生活科

1年

秋の自然にたっぷりと浸ることがかかわりを生む

## はっぱのいろがかわったよ ～あきの しぜんを たのしもう～

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>  
この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます

### 単元の概要 と 単元構成

四季を通じて繰り返し身近な自然にかかわることで、季節や生活の様子の変化に気付いたり、親しみを感じたりしていく単元です。

秋の自然の中でたっぷりと遊び、友達と交流する活動を取り入れ、楽しく、仲よく遊べるようにしました。

### 学習活動の流れ (18 時間)

学校の近くの林や近くの公園に繰り返し行ったことを思い出させ、季節の変化に着目させました。

写真や学習カードを使って、活動の様子を振り返ることができるようにしました。

「個」の気付きが全体に生かされるように、それぞれの場面ごとに交流する場面を設定しました。

#### あきをさがしにいこう (3)

- ・たくさんの秋をみつけたよ
- ・また行きたいな

#### あきのあそびばにいこう (3)

- ・秋の公園で遊ぼう
- ・見つけたものでもっと遊びたいな

#### あきとあそぼう (3)

- ・たくさん遊んだね
- ・集めた葉っぱや木の実で何か作りたいな

#### つくってあそぼう (5)

- ・きれいな飾りをつくったよ
- ・ゲームができるよ
- ・友達と交流しよう

#### みんなでたのしもう (4)

- ・お家の人にも見せよう
- ・お家の人にプレゼントしたいな

秋は、木の実や紅葉などから季節の変化を感じることができる季節です。自然に十分に浸り、友達などとかかわりながら、遊びを工夫する中で、生活を楽しむ知恵を育てる実践です。



できたよ

## 教材・活動の Point!

### 1. 1年を通じて繰り返しかかわる場の設定

活動から知的な気付きを引き出していくために、学校の裏の林や近くの公園で活動しました。何度も繰り返しかかわることを可能にすることで、子どもの思いを連続させたり、季節による変化を比較させたりすることができるのです。

### 2. 人とのかかわりに発展する活動

秋の自然の中でたっぷりと遊び、素材を利用したゲームやものづくりをしました。作っては遊び、気付いたことを友達との交流することを通して、子どもたちは、もっとやりたい、こんな工夫ができるかなという思いを膨らませていきます。それが「プレゼントしたい」「教えたい」という、人とのかかわりに発展していきます。



### 3. より質の高い交流にするために

子どもの活動は多様に広がっていきます。そこで、子どもの様子を細やかに把握し、評価規準や評価の場面を設定していく必要があります。子どもの育ちをしっかりと把握し、評価することで、適切な支援をしていくことができるのです。

